

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course
保健学研究科	国際保健学

(1) 見たこと/What you saw; (2) 考えたこと/What you thought; (3) 感じたこと/What you felt;
 (4) ジェンダーに敏感な災害対策はどのようなものだと思いますか

今回参加したユネスコチェアサマープログラムでは、ジェンダーや脆弱性の視点から災害を検討することをテーマとする講義、ディスカッション、視察、実習、ワークショップを通して、国際協働力を育むことができた。また、2 週間のスケジュールで異なる学問分野を背景にもつ他大学の学生と共に学習することでコミュニケーション能力だけでなく、今後の人生において大切な仲間を作ることができた。今回このような機会を与えてくださった全ての関係者の皆様に感謝いたします。

(1) 見たこと/What you saw

プログラムでは 1 週目に主に講義を受け、2 週目にフィールドワークに向かった。1 週目の講義では、災害とジェンダーをテーマに様々な講義を英語で受けた。講義のバラエティが豊かで、自分の専攻ではない気象学、災害マネジメント、法医学等の講義も受けることができ災害に関して広く学ぶ良い機会であった。また、私は保健学専攻であり、災害看護についての知識があり、インドネシアの学生も災害看護専攻の学生であったため深いディスカッションを行う場面もできた。

フィールドワークでは、津波と火山の噴火に関係する施設やコミュニティに出向き、専門家や地域の人から話を伺った。津波に関する施設では地震が発生した際の避難マップやハザードマップを見た。また、災害が発生したとき住民に警報を知らせる民族楽器 Kentongan も見る事ができ実際叩かせてもらった。その後近くにある海岸に行き、海の様子を観察している建物の見学をした。火山に関する施設では、Merapi 火山の BPBD を見学した。そこでは火山が噴火した際の避難マップや災害が発生した際の対策の他、建物内の設備などを見学することができた。その後、2010 年の大噴火の時、避難して新たな土地で生活をしているコミュニティにお邪魔して、シェルターを見させてもらい住民の人に話を伺うことができた。

(2) 考えたこと/What you thought

日本と同じ島国で災害の多いインドネシアだが、防災対策について考えさせられることが多かった。まず 1 つ目は、津波の危機管理である。災害のリスクを想定したマップや災害が発生したときを想定したシミュレーション等災害に関する教育が行われているが、依然として海の周りには多くの家屋が立ち並んでいた。ほとんどの住民が海での仕事をされていることもあって現状よりも災害意識を高める必要があると考える。また、現在行っている災害教育に関する理解度が高まったと判断したきっかけは何かという質問に対して、遠くに逃げるようになった事と商売の場所を変えたと言っていた。しかし遠くに逃げたという基準が曖昧であるため海のそばに生活している人にとってその距離は十分なのか判断できないことと堤防の少ない海のそばで今でも商売をする姿があったため、不測の事態を想定できていないように考えた。2 つ目はコミュニティの結束力が強い点に良い面もあるが悪い面もあるのではないかと考えた。例えば、元々コミュニティに属していない人や移住してきた人が災害時だけでなくコミュニティの中で情報不足や防災対策から外されるのではないかと考えた。この問題はインドネシアだけでなく日本でも考えられる問題であり、地域に住むすべての人に平等に災害に関する情報を伝達できる地域づくりが重要であると考えた。

(3) 感じたこと/What you felt

今回のサマープログラムのテーマが災害とジェンダーであったため、事前に阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターに見学に行ったが、実際プログラムに参加してみて自分の勉強不足を感じた。災害マネジメントや避難警報に関する講義で、一般常識として日本にもその仕組みがあることは知っていたのだが、実際どのように運営されているのかまで深く知らず、この場合日本だったらどうだろうか？と思う点が多かった。また、インドネシアではムスリムの方を多く見かけた為、住民の生活において宗教が生活に大きく影響していると感

じた。今回のプログラムでは母国語が英語でない3か国の大学が英語でコミュニケーションをとって講義やグループワークを行った。そこで、私は積極的に発言する重要性を感じた。私は英語力の不足を感じ積極的に意見を発言することができなかった。しかし、ある時学生から発言しないと理解しているのかしていないのか分からないのと、皆英語が母国語ではない為恥ずかしがることは無いと言われ、日本では英語を使う機会が無い為せっかくの機会を無駄にせず過ごすことが大切だと感じた。

(4) ジェンダーに敏感な災害対策はどのようなものだと思いますか

ジェンダーとは、人間の性別に関して、社会的・文化的に形成された性別を指すと考える。災害において考えなければいけないジェンダーの視点は生物学的な性別だけでなく、民族や文化、人種、階級、年齢、障がいの有無などによって多様性をもつ性別に対して考慮する必要があると考える。また、災害時にはジェンダーによる性別役割が強化されることにより女性の家事労働負担が増加している現状もある。女性の不利な状況を作らない、減らしていくための取り組みが求められると考える。